

阿蘇山上神社：山の上の神社

阿蘇神社は二千年以上前の紀元前 281 年に創建されました。阿蘇神社は二社から成ります：カルデラ底に広がる阿蘇市にある下宮（the lower shrine）と、阿蘇山火口からほんの百数十メートル下方にあるこの上宮（the upper shrine）です。火口そのものが神社の御神体とされています。上宮の正式名称は、文字通り「阿蘇山の上の神社」という意味の阿蘇山上神社です。2016 年の熊本地震に伴う噴火で損傷した現在の社殿は、1958 年に建造されたコンクリート造の建物です。

阿蘇神社の主な目的は、阿蘇山が噴火して地域の農作物や家畜、人々に被害が及ばないように、火山の神々の機嫌を良好に保つことでした。阿蘇神社の神職たちは、阿蘇山の神々の「気分」を表す火口底の池の様子を点検し、何か異変があれば京都の朝廷に報告しました。池の水が阿蘇や国にとって不吉な動きをしている（噴火は国難の前兆とされていました）と見なされると、全国の神社は噴火を防ぐために懸命に祈祷するよう命じられました。歴史的に、阿蘇神社は非常に重要な役割を担っており、7 世紀の中国の歴史書や 8 世紀以降の日本の歳時記もこの神社について言及したほどでした。

火山信仰は今日にも継承されており、毎年 6 月上旬、阿蘇神社では火口鎮祭が執り行われます。神職たちは祝詞を唱え、ジグザグに切られた白い紙の垂れ飾りがついた棒三本を神々への供物として火口に投げ入れます。